

2020 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	柔道整復実技IV		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	第2校舎302
担当教員	尾藤何時夢	実務経験と その関連資格	柔道整復師として30年勤務(昭島名倉堂接骨院4年、名倉堂尾藤接骨院18年、養成校等の附属接骨院8年)講義内容である柔道整復業務を行っていた。			
《授業科目における学習内容》						
柔道整復師養成に伴う厚生労働省(学校協会)規程の教育内容に沿ってシラバス作成を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
期末試験評価:100%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集) 柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集) 参考資料:必要に応じ作成した資料を使用する						
《授業外における学習方法》						
次回授業内容を確認するため、第1回目授業時に授業計画を配布することにより、学生は事前学習を行うとともに小テストなどで確認する						
《履修に当たっての留意点》						
国家試験出題基準に応じた授業内容とするため、教科書を熟読すること						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	ガイドランス用資料 ①柔道整復学・ 理論編第6版 ②柔道整復学・ 実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと	
	各コマに おける 授業予定	後期授業計画の提示とオリエンテーション 前腕骨橈骨近位端部骨折の解剖、概要、発生機序、症状について				
第2回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・ 理論編第6版 ②柔道整復学・ 実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと。 次週小テストに備え復 習を行うこと。	
	各コマに おける 授業予定	前回の復習(小テストを含) 前腕骨橈骨近位端部骨折の合併症、整復固定法、後療法について				
第3回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・ 理論編第6版 ②柔道整復学・ 実技編第2版 ③配布資料①	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと。 次週小テストに備え復 習を行うこと。	
	各コマに おける 授業予定	前回の復習(小テストを含) 尺骨近位端部骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、 整復固定法、後療法について				
第4回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・ 理論編第6版 ②柔道整復学・ 実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと。 次週小テストに備え復 習を行うこと。	
	各コマに おける 授業予定	橈骨骨幹部骨折①(分類含む) 解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)				
第5回	講義 実習形式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる	①柔道整復学・ 理論編第6版 ②柔道整復学・ 実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を 熟読しておくこと。 次週小テストに備え復 習を行うこと。	
	各コマに おける 授業予定	橈骨骨幹部骨折②の解剖、概要、発生機序、について ガレアジ骨折の概要、症状等について(小テストを含)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料②	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	上腕骨近位端部骨折③ 外科頸骨折の症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第7回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	上腕骨骨幹部骨折の解剖、概要、発生機序、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第8回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	上腕骨近位端より骨幹部にかけての整復固定法実技(小テストを含)			
第9回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	尺骨骨幹部骨折(分類含む)の分類、解剖、概要、発生機序、について(小テストを含) モンテギア骨折概要等について			
第10回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	前腕両骨骨幹部骨折の概要、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第11回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	橈骨遠位端部骨折① 伸展型骨折 分類、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第12回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(鎖骨骨折～上腕骨下端部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	橈骨遠位端部骨折② 屈曲型骨折 分類、症状、合併症、整復固定法、後療法について			
第13回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	橈骨遠位端部骨折③ その他の遠位端部骨折の分類、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第14回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。次週小テストに備え復習を行うこと。
	各コマにおける授業予定	手根骨骨折の分類、概要、症状、合併症、整復固定法、後療法について(小テストを含)			
第15回	講義実習形式 授業を通じての到達目標	柔道整復学各論 自由上肢(前腕骨近端部から手指部骨折まで)骨折の診察から施術(後療法含む)ができるようになる		①柔道整復学・理論編第6版 ②柔道整復学・実技編第2版 ③配布資料③	事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。履修内容についての総確認を行なっておくこと
	各コマにおける授業予定	手指骨骨折の分類、概要、症状、合併症、整復固定法、後療法について 総まとめ			